

主催：金沢大学環日本海域環境研究センター

後援：北國新聞社

市民講演会



フェスタ
国立大学2019

森林と湖沼に記録された 過去の気候変動データを読み解く

2019年10月12日 土 13:30~15:10

金沢商工会議所 大会議室 (金沢市尾山町9番13号)

～入場無料～

開会挨拶・趣旨説明 長尾誠也(金沢大学環日本海域環境研究センター長・教授)

「気候変動に対する人間社会の歴史的応答
— 樹木年輪から見えてくるもの」

中塚 武(名古屋大学 大学院環境学研究科 教授)

「湖沼堆積物からみる歴史時代の気候変動」

鳶田敏行(茨城大学 全学教育機構 准教授)

「北潟湖にみる環境変動:自然と人間活動」

長谷部徳子(金沢大学 環日本海域環境研究センター 教授)

閉会挨拶 長尾誠也(金沢大学環日本海域環境研究センター長・教授)



お問い合わせ

金沢大学環日本海域環境研究センター

TEL 076 (234) 6961 URL <http://www.ki-net.kanazawa-u.ac.jp/>

「気候変動に対する人間社会の歴史的応答 －樹木年輪から見えてくるもの」

近年の分析技術の進歩により、樹木の年輪から過去数千年間の気候変動を年単位で復元できるようになった。

そのデータを歴史・考古資料と対比することで、農耕開始期以来の日本や中国の人々が、いかに気候変動に対峙したかが詳細に明らかになりつつある。

講演では北陸地域を含むさまざまな地域や時代の事例を紹介し、現代への教訓を導きたい。



中塚 武

名古屋大学
大学院環境学研究科
教授



畠田敏行

茨城大学
全学教育機構
准教授

「湖沼堆積物からみる歴史時代の気候変動」

歴史時代においては、小氷期と中世温暖期という時期がありました。

これらの時代において北陸地域がどのような気候だったのか、平均気温が1℃高い、低い、というのはどのような状況なのかということ湖沼堆積物のデータなどをもとにお話しします。

「北潟湖にみる環境変動：自然と人間活動」

石川・福井の県境に位置する北潟湖は大聖寺川を通して日本海と近接しており、その環境は自然の営みだけでなく、古くからの人間活動によっても影響をうけてきました。福井県里山里海湖研究所により採取された湖の堆積物の分析から明らかになった過去約1500年間の記録から読み取るこの地域ならではの環境変化を紹介します。



長谷部徳子

金沢大学
環日本海域環境研究センター
教授



金沢商工会議所：
〒920-8639 金沢市尾山町9番13号

建物に地下駐車場があります。満車の場合は近隣駐車場をご利用ください。